令和６年度
全国学力・学習状況調査
結果報告書

令和６年９月２日(月)

智辯学園奈良カレッジ小学部

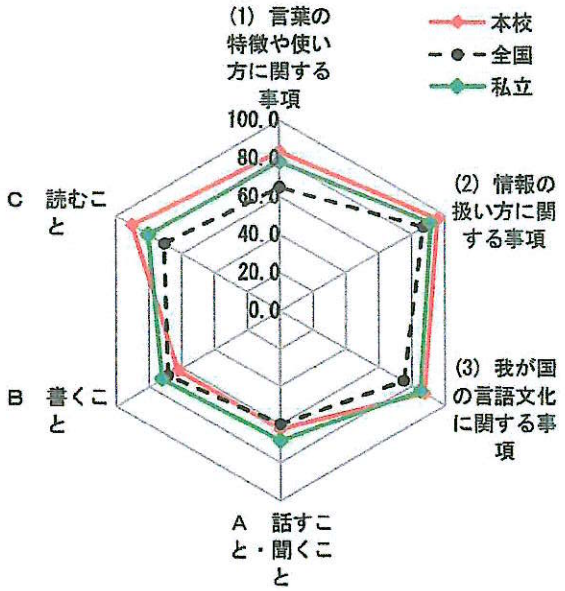
６年生が本年度４月に受験した全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。調査は、国語・算数の２教科と児童質問紙の３種類の調査問題でした。本校では、児童の基礎学力を確認するのに良い機会と考え、毎年調査に参加しています。また、児童質問紙で児童各人の生活の様子がわかるのも本調査のメリットであると考えています。
以下が本校６年生の結果です。

【国語】

対象児童数	智辯学園奈良カレッジ小学部	全国（私立）	全国（国公私立）
	24	6,637	960,172

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
				本校	私立	全国
全体			14	79	77	67.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	83.3	78.0	64.6
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	95.8	91.4	87.0
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	87.5	85.2	74.8
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	62.5	68.4	59.9
		B 書くこと	2	62.5	72.0	68.5
		C 読むこと	3	90.3	80.6	70.8
評価の観点		知識・技能	6	86.1	81.4	70.0
		思考・判断・表現	8	72.9	73.9	66.2
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	10	80.4	78.6	70.0
		短答式	2	81.3	75.5	59.9
		記述式	2	66.7	71.4	64.7

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



本校６年生の国語の基礎学力は概ね身についているといえる。「知識及び技能」については、「(1)言語の特徴や使い方に関する事項」が83.3%、「(2)情報の扱い方に関する事項」が95.8%、「(3)我が国の言語文化に関する事項」が87.5%と、問題のない結果である。

一方「思考力、判断力、表現力等」の「C 読むこと」については大きな問題はないが、「A 話すこと・聞くこと」は全国平均は上回っているものの私立の平均を下回っている。「B 書くこと」については全国平均を６ポイントも下回っている。特に「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか」を問う問題では、正答率は54.2%(全国平均56.7%)と大きな課題であり、喫緊に解決すべき課題であると考える。

児童質問紙で「国語の勉強は好きですか」という質問に「当てはまる」と回答した本校児童は32.0%(昨年度32.1

%)である反面「どちらかといえば当てはまらない」が36.0%(昨年度17.9%)「当てはまらない」8.0%(昨年度17.9%)と半数近くの児童が「国語嫌い」といえる。一方で「今回の国語の問題では，解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか」という質問に、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した本校児童は95.8%(昨年度92.9%)で、最後まで文章で書く問題に意欲的に取り組んでいたことがわかる。

ここから窺えることは、児童が国語の楽しさを知らず、テストで点数を取るためだけに勉強しているのではないかと言うことである。今後は、児童に国語を学ぶ楽しさや面白さが伝えられる授業を工夫し、児童の国語に対する関心を高め、主体的な学びに繋がるよう努力していく所存である。

また全国的な傾向として、ＳＮＳなどの影響で読解力が低下している恐れがある。新聞報道によれば、スマホやＳＮＳの利用時間を「30分未満」と答えたグループは小中学校の全教科で最も成績が良く、「４時間以上」は最も悪いという結果だったそうだ。文部科学省は「学習時間を確保するためには、ＳＮＳ利用に一定の歯止めをかけることも必要だろう」としている。

因みに本校の結果は、「30分未満」56.0%、「30分以上１時間未満」8.0%、「１時間以上２時間未満」20.0%、「２時間以上３時間未満」4.0%、「３時間以上４時間未満」8.0%、「４時間以上」4.0%であった。

さらに、これも新聞報道によれば、全国的に自宅にある本の冊数が多いほど、成績が良くなる傾向が出ており、学力との相関関係について、小中学校とも「０～１０冊」と答えた層の平均正答率は最も低く、正答率が最も高かったのは小学校が「２０１～５００冊」で、中学校が「５０１冊以上」であるということである。

「あなたの家には、どのぐらいの本がありますか」に対する本校児童の回答は、「11～25冊」が16.0%、「26～100冊」が32.0%、「101～200冊」が20.0%、「201～500冊」が12.0%、「501冊以上」が20.0%という結果だった。

これから多様な情報社会を生きる児童たちにとって、現在の世界情勢や現代社会の課題など未来を志向していくうえで知っておかねばならない情報や知識を積極的に求める姿勢は持ってもらいたいと願いつつ、他者の意見に素直に耳を傾けながらも、確かな情報や知識、エビデンスに基づいて主体的に思考し、自らの意見をしっかりと主張して協働できることが必要になってくる。そんなリテラシーが求められる中で児童たちの国語の基本的なスキルを高めることはますます重要な課題といえる。

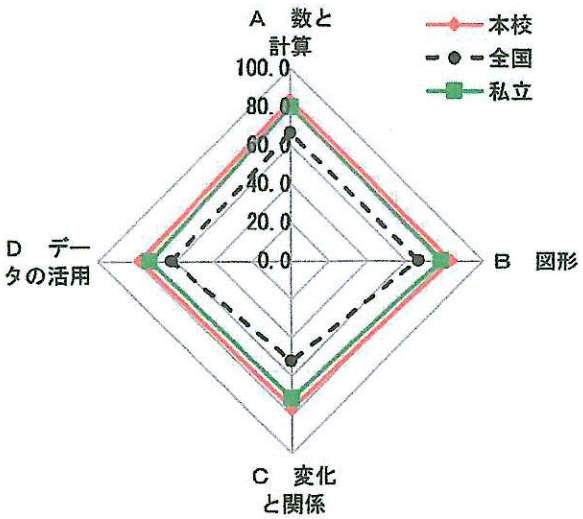
【算数】

対象児童数	智辯学園奈良カレッジ小学部	私立	全国
	24	6,637	960,389

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%)		
			本校	私立	全国
全体		16	82	77	63.6
学習指導要領の領域	A　数と計算	6	83.3	79.9	66.2
	B　図形	4	83.3	78.3	66.5
	C　測定	0			
	C　変化と関係	3	76.4	71.0	52.0
	D　データの活用	4	78.1	72.9	62.0
評価の観点	知識・技能	9	90.7	84.2	72.9
	思考・判断・表現	7	69.6	67.5	51.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	87.5	85.2	75.5
	短答式	7	86.3	78.3	62.3
	記述式	4	65.6	64.1	51.2

（注）「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



全国平均や私立小学校の平均と比較して、本校６年生の正答率はすべての領域で上回っており、算数の基礎学力がしっかり養われいていると考えられる。ただし、大問１の(1)「問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ」問題では本校は58.3%で、全国平均正答率62.3%を４ポイント下回っていた。また、大問４(3)「家から学校までの同じ距離を歩き、かかった時間が異なる２人について、どちらが速いか判断し、その理由も書く」問題では、本校は45.8%で全国平均の31.2%を大きく上回っているものの他の分野に比べると課題の残る結果であった。速い方を的確に選ぶことはできるが、選択の過程や理由を説明できない児童が多かった。速さなど単位量当たりの大きさの意味や表し方を理解するとともに、場面や目的に応じて比べ方を考察し日常生活に生かせるように指導することが今後の課題である。

今年も、グラフや図からデータを読み取り、見いだした情報を説明する問題が出題され、全国的に正答率が低かった。指導要領では「データの活用」が新たな領域として盛り込まれており、課題が継続している。加えて、算数でも長い問題文をしっかり読んで、解答を文章などで記述するという傾向の問題が増えてきており「表現力」をつけることも課題である。

児童質問紙の回答では、「算数の勉強は好きだ」（「どちらかといえば、当てはまる」を含む：以下も同様）は84.0%で昨年度78.5%よりは上昇した。また、「算数の授業の内容はよく分かる」は88.0%(昨年度85.7%)でわずかながら上昇している。また、「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」に対して、本校児童の87.5%が「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えている一方で、「算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろ方法を考えますか」という質問に「当てはまる」は70.0%で、全国平均の83.4%を大きく下回り、本校児童のあきらめの早さが浮き彫りにな

った。算数は、正解を出すことだけが目的ではない。一通りの解き方や考え方に拘泥することなく、正解に至る道筋をあれこれ考え工夫することが大切である。

本校児童は、算数の基礎学力は十分に身についているので、今後は、基礎学力のさらなる充実とそれを応用する力を養い、皆で一緒に算数を学ぶ楽しさをさらに深く体感して欲しいと願っている。主体的に問題に取り組み、論理的思考の楽しさや論理的整合性の美しさを味わえるようになってくれることを期待して、これからも各個人に寄り添いながら丁寧に教科指導を続けていく。

学習についての総括

質問事項		選択肢					
		当てはまる（している）	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない		
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	本校	40.0	32.0	24.0	4.0		
	全国	30.4	50.4	16.1	3.0		
		３時間以上	２時間以上	１時間以上	３０分以上	３０分未満	全くしない
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	本校	32.0	8.0	32.0	20.0	8.0	0.0
	全国	11.3	12.6	31.0	26.9	12.9	5.3
		４時間以上	３時間以上	２時間以上	１時間以上	１時間未満	全くしない
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	本校	16.0	16.0	8.0	32.0	28.0	0.0
	全国	7.6	4.4	10.0	27.0	36.0	15.0

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という問いに対して「よくしている」と回答した本校児童は40.0%、全国30.4%で意欲のある児童の多いことが分かるが、一方で「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」の合計が本校児童は28.0%、全国が19.1%と全国と比較して学習への意欲が低い児童が多いことも課題である。本校児童のおよそ３割は教員から指示された課題をこなすことに追われた受動的な学習に慣れ、学びに対する主体性がまだ十分に養われていない状況にあることが分かる。児童たちが主体的な学びを今以上に深められるように、今後さらに授業の組み立てを工夫する必要がある。

学習時間について、平日２時間以上勉強している児童は、全国が23.9%に対して本校は40.0%(昨年度67.9%)、また休日などに２時間以上勉強している児童は全国が22.0%に対して本校は40.0%(昨年度64.3%)と全国と比較すれば学習時間を確保している児童が多いが、昨年度の本校６年生と比較すると学習にかける時間が少ないことがわかる。

ただ、学習時間が多ければよいというわけでもない。しっかり時間をかけて堅実に学習に取り組むことは大切だが、時間に見合う学習効果が得られているかが重要である。中学校に入学したら、学習の量・質ともに今以上のものが要求される。それ故、今後、児童たちの家庭学習の時間を増やすとともに、学習の質を高めることに注力したい。

最近は、多くの知識をインプットし、それをアウトプットさせるタイプの入試は減少しつつある。答えが一つでない問題についても、自分の持っている全知全能を傾注して考察し、判断し、誠実かつ論理的に解答を創出することが求められている。そういう意味では各教科の単純な知識の蓄積だけでは対応できない。教科横断的に物事を考えられる力を養い、リベラルアーツとしての学びを深める必要がある。

授業も単なる知識の伝授ではなく児童各人が知的好奇心を働かせ、楽しみながら勉学に励んでくれるよう展開を工夫する必要がある。

【児童質問紙】

生活習慣及び学校生活

質問事項		選択肢			
		当てはまる（している）	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
朝食を毎日食べていますか	本校	84.0	16.0	0.0	0.0
	全国	83.4	10.3	4.6	1.7
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	本校	16.0	48.0	32.0	4.0
	全国	39.7	43.2	14.3	2.8
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	本校	56.0	40.0	4.0	0.0
	全国	56.2	35.4	7.1	1.3
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	本校	16.0	48.0	36.0	0.0
	全国	30.2	36.9	22.2	10.6
学校に行くのは楽しいと思いますか	本校	48.0	32.0	20.0	0.0
	全国	47.3	37.5	10.2	5.0
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	本校	40.0	40.0	16.0	4.0
	全国	30.5	45.4	18.6	5.5
友達関係に満足していますか	本校	60.0	36.0	4.0	0.0
	全国	62.4	28.7	6.8	2.2

「朝食を毎日食べていますか」という質問では、「当てはまる」が84.0%、「どちらかと言えば当てはまる」が16.0%で、全員がほぼ毎日朝食をとって登校している。児童たちは午前中の授業を集中して受けることができ、この結果は各ご家庭のご協力の賜物であり、ありがたい限りである。

起床時刻については、96.0%がほぼ決まった時刻に起床しているが、就寝時間については36.0%の児童が日によって就寝する時刻が違うという結果であった。

「早寝・早起き・朝ご飯」は児童が健全に学校生活を送る基盤となる。また児童の健康維持のためにも大切な事柄である。今後とも児童が基本的な生活習慣を確立できるようにご家庭と協力しながら指導を強化していきたい。

学校生活については「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に「当てはまる（「どちらかといえば当てはまる」を含む）」が80.0%で昨年の85.7%よりは低かったものの大方の児童は充実した学校生活を送っていることがわかる。一方で20.0%の児童が「どちらかといえば当てはまらない」と回答していることや、「困りごとや不安がある時に、先生や学校の大人にいつでも相談できますか」という問いに対しても36.0%の児童が「どちらかといえば当てはまらない」と回答していることを踏まえ、学校生活に充実感を持てていない児童や悩みごとを１人で抱え込んでいる児童がいることを前提に、丁寧に児童に寄り添いながら学級経営をしていくことが大切であると考えている。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」は、80.0%が「楽しい」と考えており、「友達関係に満足していますか」は、96.0%が「満足している」ということから、児童たちはそれぞれの考えを尊重し合いながら友人関係を構築できていることが分かる。まさに本校が大切にしている「相互礼拝・相互扶助」の精神に基づき、多様な価値観を互いが尊び合い、違いを乗り越えて互いに助け合うという精神がしっかり養われていると嬉しく思っている。

規範意識

質問事項		選択肢			
		当てはまる（している）	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
人が困っているときは、進んで助けていますか	本校	40.0	48.0	8.0	4.0
	全国	46.0	46.6	6.2	1.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	本校	88.0	12.0	0.0	0.0
	全国	79.4	17.2	2.5	0.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	本校	80.0	16.0	4.0	0.0
	全国	71.1	24.8	2.9	1.1

本校児童は規範意識もしっかり身についていることが分かる。困っている人を進んで助けようという思いや、「いじめ」を決して許さないという意識、人の役に立つ立派な人間になりたいという願いを、ほとんどの児童がしっかりと持っている。

本校教育の根幹をなす宗教的情操教育が結実した証であると心から嬉しく思っている。

今後も積極的にかつ主体的に社会貢献に取り組む心優しい人物を育みたいと考えている。

自己有用感

質問事項		選択肢			
		当てはまる（している）	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
自分には、よいところがあると思いますか	本校	56.0	32.0	8.0	4.0
	全国	43.4	40.6	10.5	5.4
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	本校	80.0	20.0	0.0	0.0
	全国	48.8	41.1	7.3	2.7
将来の夢や目標を持っていますか	本校	76.0	12.0	4.0	8.0
	全国	60.7	21.7	9.8	7.7
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	本校	52.0	36.0	12.0	0.0
	全国	50.8	40.8	7.4	1.0

本校児童は88.0%の児童が「自分にはよいところがある」と考え、「将来の夢や目標を持っている」「普段の生活の中で幸せを感じることがある」と回答しており、さらに、児童全員が先生から認めてもらっていると捉え、自己有用感を持つ児童が多いといえる。 一方で「自分に良いところがない」「将来の夢がない」と感じている児童が12.0%いることも見逃せない。これらの児童は、自己に対する要求水準が高く、完璧を追い求めるあまり、そうでない自分に満足できていないのではないか。また、周囲の大人の期待に応えたいという強い気持ちがあり、失敗して裏切りたくないと考えるのではないか。自分を見失うことなく、各自がしっかりと自分と向き合ってもらいたいと願っている。

失敗したときこそ大きな成長のチャンスである。児童たちが失敗を恐れず、何事にも果敢に挑戦し、小さな失敗をたくさん積み重ねて大きな成果へとつないでくれることを期待する。

将来が不透明で世の中がますます多様化していく中、本校は、社会に貢献できるリーダー育成のため、児童各人の夢を大切に育みながら一人ひとりと丁寧に向き合える学校でありたいと考えている。